



第30号
平成26年4月1日
(隔月発行)

発行：西東京市市民協働推進センター ゆめこらぼ 〒188-0012 東京都西東京市南町5-6-18 イングビル1階

ゆめこらぼ開設5周年を迎えて

本年3月、西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ開設5周年を迎え、ゆめこらぼ通信も本号で第30号を発行することとなりました。皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

当センターは、平成20年2月に策定された「市民活動団体との協働の基本方針」の一つである「協働しやすい環境の整備」を受けて設置されました。市民参加の協働推進検討委員会により、望まれる機能や運営等について、市民や市民活動団体の視点から議論を重ねてまとめられた「(仮称)市民協働推進センター設立に向けた提言書」をもとに運営を行い、市民活動団体を支え、市民同士、市民と企業、市民と行政など、地域における様々な主体の組み合わせによる協働を推進していく使命を負っています。

当センターに登録いただいているNPO・市民活動団体も121団体となりました。共助社会づくりが求められる今日、①多様な人が「あつまる」、②多様な人を「つなげる」、③多様な活動を「ささえる」という3つの理念のもと、市民活動の支援と協働の推進を目的とする当センターの役割を果たすべく取組んでいく所存です。登録団体をはじめ、市民の皆様の一層のご支援をお願い致します。

(西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ センター長 内田雅俊)

ゆめこらぼの今年度の事業

<昨年度を振り返って>

平成25年度は、「まちづくり円卓会議」「行政職員と市民活動団体との懇談会」「NPO・市民活動ネットワーク」を重点事業に位置付けて取組みました。

初めて行った「まちづくり円卓会議」では、「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」をテーマに話し合いを進め、今後、農地での共同農作業を行うことになるなどの成果が得られました。

「NPO・市民活動ネットワーク」事業は、「交流の集い」で過去最多の49団体61名が参加し、団体相互の交流ができました。また、初めての試みとして公民館の講座に協力し、受講者である市民と参加11団体との交流を行うことができました。

「行政職員と市民活動団体との懇談会」は、行政職員からは市民活動団体の思いなどへの理解が進んだとの感想が聞かれましたが、市民活動団体側からは更に充実した議論が求められました。

<新年度の事業について>

平成26年度は、昨年と同じ3つの重点事業を中心に15の事業に取組む予定です。

「まちづくり円卓会議」は、新たなテーマのもとに3回開催する予定です。地域連携促進事業では「地縁組織との連携」を新規事業で行ないます。

「行政職員と市民活動団体との懇談会」は、開催時期の前倒し、より充実した会合となるための企画を検討して開催する予定です。

「NPO・市民活動ネットワーク」は、昨年同様、団体相互の交流の集いを予定するほか、市民と団体との交流のための企画を公民館等の協力を得て実施する計画です。また、「NPO・市民フェスティバル」は、課題である市民の来場者を増やすための工夫を凝らした企画にする予定です。

なお、平成26年度は、第三者評価を行う予定です。

行政職員との懇談会 話が止まらない! ワールドカフェ

2月5日(水)防災センターで「行政職員と市民活動団体との懇談会」を開催し、行政職員14人、市民活動団体22人が参加しました。懇談はワールドカフェ方式ですすめられました。5,6人のグループに分かれ、自己紹介後「まちづくりについて思っていること」、次に「まちづくりをすすめるために大切だと思うこと」について途中メンバー交代をしながら意見交換、振り返りを行い全員で共有しました。

行政と市民活動団体など立場の違う者同士が、対等な関係で懇談をすることにより、互いの特性や立場への気づきが生まれた取組みとなりました。参加者からは、もっと話を深める時間が欲しかったという声が多くありました。協働を推進していくためには、更なる懇談会開催の必要性を実感しました。



第5回協働を考えるシンポジウム 参加と協働のまちづくり ~三鷹市の事例から~

2月17日(月)に保谷庁舎で協働を考えるシンポジウムを開催し、行政と市民活動団体など39人が参加しました。「NPO法人みたか市民協働ネットワーク代表理事」の正満たつ子氏による基調講演では三鷹市の50年の市民参加の歴史が紹介され、「つなぐ」「支える」「つむぎだす」の3つの機能にもとづいた活動などが紹介されました。

パネリストの「みたかスクール・コミュニティ・サポートネット代表」の四柳千夏子氏、「NPO法人子どもアミーゴ西東京事務局長」の小松真弓氏、「西東京青年会議所前理事長」の鈴木一秋氏、「西東京市協働コミュニティ課長」の浜名幹男氏が活動やまちづくりの考え方を紹介しました。最後に正満氏は、今後は民・学・産・公のネットワークを強化し、若い人の意見を取り入れ、協働に関わる人の年齢層を広げていきたい、まちづくりは自分の暮らしに関わることで、傍観者からいつの間にか参加者になることが素敵だし、そうありたいと結び



中邑賢龍先生 個性を支えるツールの活用術

東京大学先端科学技術研究センターで人間支援工学を研究されている中邑賢龍教授による講演が登録団体でこぼこの協力のもと、2月22日(土)コール田無で開催されました。

最新のツールを使うことで子どもたちの苦手なことを克服、サポートし、誰もが個性と能力を最大限に発揮し、参加できる社会や学校のあり方について事例を交えて楽しくお話ししていただきました。

知的な遅れがない発達障がい者の場合、勉強をするために支障となっている部分を最新機器で補うことで受験することも可能になり、高等教育を受けるチャンスも得ることができる。この5年間で進学率は2倍に伸びてきているそうです。障がい・人種・性別・職業など多様な特性を有する人たちを理解し、誰もが自己実現できる社会の構築実現をめざしている研究活動に参加者一人ひとりが少なからず感動している様子が窺え、有意義な講演会であったことを確信しました。



ゆめサロン 企業の社会的責任CSRの 取り組みについて

ゆめこらぼは、3月5日(水)に損保ジャパンちきゅうくらぶの岸正之氏と13人の参加者を迎えて「ゆめサロン」を開催しました。講演者の岸氏には、持続可能な社会の実現に向けての企業側の社会的責任の取り組みについて多くの事例を交えて紹介していただきました。

本業の保険事業の強みを活かしながら、持続可能な社会の実現に向かって社員一人ひとりが自覚を持ち貢献している、新しい社会的価値の創造に挑んでいる様々な取り組みと展望を分かりやすく説明していただきました。



◆◆登録団体活動紹介◆◆

NPO 法人 生活企画ジェフリー

浪江町の爺ちゃんの叫び！

3.11 東日本大震災から3年。地震・津波・原発事故の三重苦の中、浪江町から避難された高田さんの話は、孫たちのためにも伝えていかなければいけないという想いがひしひしと伝わりました。情報が無い中、遠くに避難しなければいけないと自動車を走らせましたが、ガソリンは無く、避難所では食料が足りず、コンクリートの上では、寒くて寝られない状況。車を乗り捨て、やっとの思いで次女が住んでいる川崎に避難したのですが、緑豊かな美しい故郷は放射能という目に見えないものに汚染され、帰ることができません。そのくやしさを、無念さを、私たちはどこまで受け止められるのか、考えさせられました。



(生活企画ジェフリー理事 篠通恵氏記)

西東京子ども・文化フェスティバル
実行委員会

春をよんだ子どもたちの歓声と笑顔

2月2日(日)西東京市民会館で第13回子ども文化フェスティバルを行いました。合併後、毎年実行委員会や協力団体でつくりあげ、行っています。当日は天気も良く760名の参加で一日中子どもたちの歓声と笑顔で公会堂内は春のような温かさでした。午前中はベーゴマ、けん玉や南京玉すだれなどで遊び、大工さんの指導で立派なマガジンラックを作りました。午後は丸山市長の挨拶、子どもたちのダンス、合唱、劇、マジック、ひとり人形芝居、朗読、保谷高校OB吹奏楽団の演奏、そしてフィナーレはステージにあがった50名の子どもたちと会場が一体となって「勇気100%」を熱唱し幕を閉じました。

(実行委員会 矢挽和子氏記)



放射能測定を考える会・西東京

公開講座 福島はいま

2月15日(土)田無公民館で、当市社会福祉協議会/にしとうきょう市民放射能測定所あるびれおの後援によりフォトジャーナリストの豊田直巳さんを講師に、公開講座「福島はいまー原発事故がもたらしたもの」を行いました。

前夜は記録的な降雪で開催自体危ぶまれましたが、28名の参加者がつめかけました。

豊田さんの話は、湾岸戦争で米軍が使用した劣化ウラン弾が原因と思われるイラクの子どもたちに広がる健康障害の現実、東日本大震災の翌日から福島原発事故被災地取材して明らかになった放射能汚染の実態、効果がほとんど



検証されずに進められている除染の内実など広範囲に及び、福島の実態を撮影した数々の写真がスライドで上映され、とてもリアルに迫ってくるものでした。福島からの電力を消費してきた都民も原発事故に対して当事者であることを考えさせられる講演でした。(放射能測定を考える会 佐藤安徳氏記)

NPO 法人
西東京 NPO 推進センター〔セプロス〕

「iPad たのしみ隊」の誕生

市民が必要とするサービスを生み出す NPO 法人として活動している〔セプロス〕です。今回紹介する活動は、急速に普及しているスマートフォンや携帯端末を、だれもが豊かな生活の実現のためのツールとして活かせるよう、操作や楽しみ方を学び合う「iPad たのしみ隊」の活動です。〔セプロス〕が実施した講座の受講生が中心メンバーとして日々活動しています。皆さまどうぞお立ち寄りください。

(セプロス理事長 浜昱子氏記)



「まちづくり円卓会議」1年の振り返り
障がいのある人もない人も分けられない居場所づくり

昨年2月に手探りで始めた「まちづくり円卓会議」でしたが、今年度は「障がいのある人もない人も分けられない居場所づくり」をテーマに1年間継続し、3月10日(月)西東京市障害者総合支援センターフレンドリーで第3回目(参観者16名)を開催し、「農地での共同作業」という具体的な動きに結びつけられました。

会議メンバー全員が「まちづくり円卓会議」は初めてで、どんなことをするのだろうというまどい、初対面のメンバーもいるという不安やスタッフも不慣れで試行錯誤をしながらの1年間でした。

しかし、回を重ねるごとに、違った立場や考えの人の意見に触れることで、熱い思いの人との出会いがあり、刺激を受けたり、知恵やエネルギーが行き交う場となり、会議メンバーがお互いつながりを感じるようになりました。今後は、そのつながりを活かして事業展開できるよう取り組みたいと考えております。



新たな登録団体<2014年1月~2月>

◆傾聴ボランティア「きずな」

目的：傾聴をとおして地域との絆を深めながら社会と地域に対して奉仕活動を行っていきます。

◆NIA(西東京市国際交流会)

目的：西東京市を訪れ、また居住している外国籍の方たちと交流をはかりお互いの文化を理解して、住みよい社会をつくります。

◆お手玉・竹がえし西東京支部

目的：次世代の子どもたちにむかしあそびであるお手玉と竹がえしを伝承していくことによって、脳の活性化をはかり、笑顔をつくっていきます。

◆エリア誌「エコッチ」を発行する会

目的：「エコッチ」を発行することを通じて、市民の啓発および市民の活動に協力することを旨とする。

<2014年2月末現在で121団体になりました>

みんなの本棚

「灰色の地平線のかなたに」

ルーター・セペティス作 野沢佳織訳
発行 岩波書店

2001年、杉原千畝生誕百周年記念「桜の記念植樹と文化交流の旅」日本リトアニア友好交流祭開催で、リトアニア・ラトヴィア・エストニアのバルト三国を初めて訪ねました。以来、昨年5月までに5回にわたり杉原千畝足跡の旅を重ねています。



初めてのバルト三国は、当時のソ連から独立して10年、どこか重たい空気が感じられ、行く先々では工事をしておりましたが、この20数年間で街は随分明るくなりました。植樹した桜も13年たつと大きく成長していました。バルト三国を訪ねる度に耳にする独立の際の「人間の鎖」の話に耳にすると、今でもなお、戦争の傷跡は街にも人の心にもあるように感じられます。

そんな折、「灰色の地平線のかなたに」の書籍を知りました。第二次世界大戦中にソ連によって連行され、シベリアで強制労働に従事させられたバルト三国の指導階級の家族の過酷な経験をした体験者の取材をもとに描かれています。残酷な仕打ちの部分を読み進むと衝撃的な内容ではありますが、記録を真実として知ること、この種の悪を二度と繰り返してはならないためであると証言されています。

(柳沢在住 竹内美恵子氏)

西東京市 市民協働推進センター ゆめこらぼ

〒188-0012 西東京市南町5-6-18 イングビル1階



ゆめこらぼ
モバイルページ

Tel:042-497-6950 Fax:042-497-6951

E-mail:yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp

http://www.yumecollabo.jp/

開館時間 午前10時~午後9時

休館日 毎週火曜日(祝日の場合は開館し、次の平日が休館日)